

て往つて居る。機械の侵略する所となつた一切の工業に在ては、個人的の道具は、労働者の手からモギ離されて、機械——最早や生産者の財産たる能はざる、労働の総合的機械——に依て取つて代られた。資本家制度は、人間からその私有財産、即ち道具を剝奪して了つたのである。そして第一に剝奪されたのは、人間が自分の爲に作つた最初の完全な道具、即ちその防衛用の武器であつた。野蠻人は、最も完全な歴史的には武器であると同時に道具たる、その弓矢の所有者である。然るに、兵士はこの道具、即ち武器を剝奪された最初の平民であつて、この武器たるや、彼を兵役に就かせた政府に属する物である。

資本家的社會は、平民階級の私有財産をば、最少限度に減じて了つた。その上押し進めやうとすれば、生産者——黄金の卵を生む資本家の鷲鳥たる——を殺して了ふ事になる。で、生産者の手から、その労働用の器具を全く剝奪するやうになつて居るので、此の掠奪たるや、大多数の労働者に取つては既に確定せる事實なのである。

資本。財産の資本的形式は、近世社會に於ける財産實に好模型であつて、他の社會に在ては、是れは今日の如く、普通有力な事實としては有しなかつた。

此の財産の形式の特長は、その生産する價値の一部をば、刻々に盜まれて居る、自由生産者の利益^{ニキリイナリ}用^{ヨウ}であつて、之れはマルクスが立證した論破し難い事實である。資本は商品の生産に基づいて居る。即ち、人間が労働者、又はその領主、或は奴隸を所有せる主人の消費を目的とせず、單に市場を當にして生産する、生産の形式に基づいて居るのである。他の社會に在つても、因より人

間は賣買を行つたが、然しその交換たるや、剰餘の物品だけに限られて居た。かう云ふ社會に在ても、労働者、奴隸、或は農奴が、利^リ用^{ヨウ}されて居たのは事實だが、然し所有者は彼等に對して、少くとも一定の義務を負つて居た。即ち、奴隸所有者はその奴隸が働らく、働らかぬに拘はらず、彼等を養つて往かなければならなかつた。然るに、資本家は一切の負擔から免がれて了つたので、そのカトウが、己れに仕へて居た奴隸の、老耄衰弱せるを見て逐ひ出したのに憤慨した、知らずブルユウ^{ブルユウ}タクをして、己れを富ませた労働者が、飢饉に瀕し、又は養育院に死ぬのを、捨て、置く近世の資本家を見せしめば、將た何か云はんやである。奴隸や奴僕^{ボクシ}（負債の爲に奴隸となつた者）を解放する上に、資本家が成就せんと欲したのは、生産者の自然では無くして、實に一切の義務負擔を、労働者にかづけて了ふ資本の自由であつた。所有者が使用と濫用との權利を、その極度まで揮ひ得るのは、只だ財産の資本的形式が行はれる時だけである。

斯の如きもの、近世社會に於ける財産の現存形式である。是れが表面上の觀察すらも、是れ等の形式そのものからして、變化を受けて居る事を信せしめるに足りる。即ち、古代の起原の共有財産が、私有財産に變られて居る傍らでは、資本家的私有財産は國家の統轄する、共有財産に變せしめられて居るのである。けれ共、此の究局の形式に達する前に、資本は生産者からして、その個人的道具を剝奪し、そして聚合的な労働の道具を作るのである。

で今や、現在の財産の形式が、活動進化の状態に在る事を知つた以上、過去に於てもまた、財産